



文庫8
E 237
6

長崎中學
校印
庫印

第二十二編
東亞史略卷七目錄

紀元千六百年代日國ノ風俗ノ事

第二十三編

維也納ノ圍ミヨリ相續戦争ノ結局ニ至ル

ノ事 紀元千六百八十三年ヨリ
同千七百十一年ニ至ル

第二十四編

查爾斯六世ノ事 紀元千七百十一年ヨリ
同千七百四十年ニ至ル

第二十五編

東亞史略

卷七目錄

文部省

明治八年四月

日本文部省
東亞史略

文部省

メリアセレーザノ事
紀元千七百四十年ヨ
同千七百八十年ニ
至

大目録



日耳曼史略卷七

第二十二編

紀元千六百年代日國ノ風俗ノ事

今茲ニ千六百年代ノ末日日國及ヒ日人ニ就テ
少ク注目スヘキ所アルヲ以テ姑ラク前章紀
事ノ談ニ接セス抑佛人又土人トノ戦争ハ實
ニ日國ノ大害タル事疑ナシ然ルニ其國忽チ

後藤達三 譯

盛昌ニ復シ維也納圍ノ後四五年ヲ出スレテ
國人曩時ノ如ク快活幸福ヲ得タリ維也納ハ
繁華好住ノ地トテ其名高カシ

問紀元六百年代維也納家屋ノ様如何ナルヤ

答維也納ノ家屋石造ニシテ美ヲ盡シ民皆富
ミ居家食案ノ備具總テ能ク整ヒタリ
從來瓊國冬季寒威甚シク男女其身ニ皮裘ヲ
纏フ程ナルカ故ニ每局ニハ容易ク運搬ス可
キ局爐アリ婦女ノ寺ニ詣ル時モ寒天ニハ之

ヲ提ケ行トナリ

問瓊國娘子ノ好ム所ノ遊戯ハ如何ナルヤ

答瓊國娘子ノ為ス優美ナル遊戯ト云フ者ハ
冬季ノ間ダニウグ河支流ノ氷河ヲハ松明ヲ
點シ雪車ニテ氷上ノ馳驅ヲ競フコナリ
問雪車ハ如何ナルモノナルヤ

答雪車ノ形容一ナラス或ハ海扇ホタテガサノ如キモノ
アリ或ハ虎形ノ如キモノアリ皆華美ニ之ヲ
飾リ各一馬ニテ之ヲ挽キ其馬ニハ羽毛絹絲

并ニ數多ノ小鈴ヲ附ケタレハ路上恰モ音樂
ヲ奏スルカ如ク美聲鏘々然タリ又馬上ノ從
者松明ヲ運ビ紳士一名ツ、各婦人ノ後ニ坐
レテ雪車ノ馬ヲ御セリ
諸婦人雪車ノ馳驅ヲ好ムトスレハ紳士モ亦
其頃日國一般喜フ所ノ野猪ノ狩リヲ為ス少
ナカラズ

問當時英日兩國ニ於テ如何ナル割烹行ハレシ

答英日ニテ上等ノ割烹ハ猪肉ニ越エタルモ
ノナシ英國古代ニハ殊ニ猪頭ヲ重ンシ盛宴
ニノミ之ヲ用フ且時アツテ耶蘇生日ニ猪頭
ヲ食卓上ニ供スルニ其前ニ樂人音樂ヲ奏セ
リ又日國ニハ帝レヲポルト屢猪獵ニ出テ耶
蘇生日ニハ必ラス帝ノ羞膳中ニ猪頭ヲ設ク
此時ニハ帝人民ト共ニ宴會ヲナス一風習タ
リ

問日國ニテ耶蘇生日ヲ如何ニ祝セシヤ

答日國ニテハ他國ト同様ニ耶蘇生日ヲ以テ
 佳節トシ第十二日ノ夜ニハ貴賤トナク快樂
 ヲ極メリ皇帝皇后亦自ラ遊戯ニ相列リ且ツ
 其時ノ間其尊爵ヲ卑下シ當夕ノ祭主祭婦ト
 ナリ帝ハ國人ノ衣服ヲ穿チ后ハ之ニ酒ヲ薦
 メケリ故ニ日人古代ノ美俗ハ英國ノモノニ
 彷彿タルヲ見ル可シ
 維也納ニ定立セル宗旨ハ舊教ナルヲ以テ此
 地ニハ新教ノ禮拜堂ヲ建ツルヲ許サズ故ニ

新教宗徒止ムトヲ得ズ此ヲ距ル四十里ナル
 プレスブルグニ參詣ス維也納近傍ニ一ツノ
 拜所ナキヲ以テ此ノ參詣人往來便利ノ為メ
 ニ設置シタル馬車毎日維也納ヨリプレスブ
 ルグニ發セリ
 問通路ノ方法ノ進歩如何ナルヤ
 答當時通路ノ進歩ト云フハ諸大邑ノ間ニ公
 ケノ旅車ヲ置キ政府之ヲ監督シ日々其入金
 ニ從テ税金ヲ收メリ

問維也納居住ノ猶太宗徒ニ付キ如何ナル制度
ヲ立タルヤ

答猶太宗徒都府維也納ノ中ニ居住スルコトヲ
許サレズ故ニ晝ハ之ニ入り夜ハ退去シ且街
衢ノ中ニ通商ノ場一箇所ヲ許サル、ヲ以テ
タニウグ河ノ向フナル一郡ヲ居住ノ地トナ
シタリ

此事維也納ニ限ラズ日國ノ諸大都邑ニ於テ
凡テ此ノ如シ故ニニウレンブルグニテハ猶

太宗徒其外郭ニ於テ別ニ已等ノミ居住スル

邑里アリ其都府ニ入ル時ニハ常ニ關稅ヲ納

レ日ノ没スル前ニ退去セサルコトヲ得ス又オ

ウグスブルグニテハ太宗徒其都府ニ入ル毎ニ

一フロウリン名錢ノ即チ英國ノ凡ソ三シルリ

ンダフ納ルハコトナリ

問猶太宗徒墺國ヨリ放逐セラレタルハ何故ナ

ルヤ
答宗徒放逐ノ由テ起ル所以ハ維也納大學校

中ニ在ル所ノ聊カ規矩ニ從ハサル年少生徒
 等宗徒ト争ヒ屢之ト闘ヒ許多ノ生命ヲ失フ
 者アルカ故ニ宗徒ノ都府ニ來ルヲ禁シ其
 後遂ニ宗徒悉ク墾^レ全國ヨリ放逐セラントリ
 維也納周圍ノ土地甚々富饒ニメ一般許多狹
 小ノ菜園ヲ分タレ衆多ノ農夫此ノ中ニ安ク
 生計ヲ營メリ

問農夫ノ景況如何ナルヤ

答世界中農夫ノ景況ハ墾國ニ若クモスナレ

現在農夫ノ安樂ナル容色ヲ見并ニ其情態ニ
 注思シタル人ハ此言ニ毫モ疑ヲ容レス
 遊舞ハ佳節ニ方テ農夫ノ第一ナル娛樂ナリ
 而ノ少年ノ輩ハ褒賞ヲ得ンタメニ擊劔ヲ行
 フノ風習アリ
 此頃維也納ニ未タ劇場ノ設アラズ然ルニ賣
 藥師弄法師等ノ如キ者アリ金錢ヲ得テ以テ
 其技藝ヲ施行セリ
 日國ノ中多ハ古ヘ野蠻祖先ノ風習ヲ存スル

西遊記 卷之七 新羅

者アリ

國人至好ノ房室ノ中ニテ其飾リノ大ナルモノハ美麗ニ研キタル大小盞器ニシテ來客アル時ニハ其家ニテ辨ヌルダケノ羞膳ヲ葡萄酒數瓶ト共ニ忽チ調進セリ原ト日國ニハ葡萄酒ヲ製スルコト夥多ナル故旅人若シ客舎ニ於テ一杯ノ酒ヲ要スレハ則チ杯中ニ滿酌シテ進メ其價僅カ一ペンニイフ越エサルナリ

問

ライン河近傍諸州ヲ誰カ領セシヤ

答ライン河兩岸皆葡萄園アリ其間ニ數多ノ小都府村落アリ此處ニ住スル者ハ葡萄汁ヲ用ルコト自在ナリ

ライン近傍諸州ハ主選者ハラチイン人所轄ニシテ領内ノ者凡テハラチインノ臣下タルヲ知リテ皇帝ノ臣下タルヲ知ラス

ヤ

問ハラチ子トハハラチインノ領地居民ノ事業如何ナル

答此地ノ居民ノ事業トスル所ハ多ク葡萄園

西遊記 卷之七 新羅

ノ培養并ニ造酒等ニシテ争亂ニ逢ハサル時
ハ甚タ安全ナリ

問 パラチ子トニ入寇セシハ誰ナルヤ

答佛王路易十四世ハパラチ子トノ常ニ憂
ル所ノ敵ニシテ既ニ之ニ入寇シタルト二回
ナリ其時炮火ト劔戟トニ由テ土地ヲ荒敗シ
而メ都邑ノ人民ヲ其荒野ニ驅逐セリ人民殆
ト雨露ヲ凌クノ家ナク生命ヲ續クノ食ナキ
ニ至ル去レドモ今此ニ語ル時世ノ四五年ノ

間皇帝佛王ト和シハラチ子トノ居民再ヒ
安然トシテ生業ヲ營ムトヲ得タリ

問 農夫衣服ノ大略ヲ舉ヨ

答村落トモ思ハシキ小都邑ニ住スル農民ノ
富ル者ハ其所行官吏ノ如クニテ土地ノ習俗
ヲ免ル、ト能ハス故ニ客舎ニ集リ各酒肴ヲ
備ヘ職掌ヲ談スルノ弊風アリ且衣服ハ白色
ノ脊心チヨッキヲ穿チ黒絹ノ大ナル風領エリマキヲ纏ヒ青色
黄色ノ絲帶ニテ蓋ヒタル長尺ノ帽子ヲ冠リ

皇皇
皇皇
皇皇

卷之七

敬語

タリ又パラチ子トニ住スル婦人ノ衣服奇
異ナルト少ナカラス帽子ハ小ニシテ數色ノ
織物ニテ製シ其縁ハ一ノ異色ナルモノヲ以
テ之ヲ作り裳ハ甚タ短ク華帶ヲ以テ之ヲ腰
ノ周圍ニ纏ヒ帶下ニ一大圈子ヲ施テ廣ク之
ヲ張開セリ

問ヘエイデルベルグノ酒樽ハ如何ナルモノナ
ルヤ

答往キニ日人酒ヲ嗜ムノコトヲ語リシガ爰ニハ

エイデルベルグノ主選者ノ宮中ニ在ル穴ノ
中ニ驚クベキ鉅大ノ酒樽アリシ事ニ就テモ
尚酒ヲ嗜ムノ情ヲ知ルベシ其樽ノ高サ二十
一フヒイト周圍モ亦之ニ称^{カチ}フ而シテ其表面ニ
ハ玉選者ノ徽號及ヒ驍騎黨ノ記號ヲ印レテ
之ヲ飾レリ若シ樽ノ頂上ヲ見ント欲スル時
ハ其前面ニ造リタル露臺マテ五十段以上登
ラサレハ見ルコト能ハス實ニ此ノ酒樽ハ歐洲
ニ名高キモノニシテ甚タ珍異ノ物ト云フ

皇皇

卷之七

九

敬語

日人最初用ヒタル絹ノ內衣并ニ深紅色ノ外
衣ヲ廢シ縉紳富家通例ノ服ハ總テ黑色ニシ
テ其他短キ羽織大ナル風領エリマキ并ニ髻アリ嘗テ
佛蘭西風ノ衣服ヲ採用セシ頃ハ身分ノ等級
ニ由テ衣服ノ區別アルヲ既ニ廢止セリ然レ
氏國民猶外國ノ服ヲ用ルノ意ナキヲ以テ遂
ニ固有ノ服ヲ用フ以來世々其様僅ニ變スル
ノミナリ

埃國諸領ノ中チロルニテハ諸民幼少ノ頃ヨ

リ狩獵ニ馴レタルユヘ此技ニ巧ナルヲ實ニ

高名ナリ

村里ニハ廣キ空地ヲ置キ嬰兒此處ニ於テ演

射角力ヲナセリ民ノ角力ヲ好ム實ニ甚タレ

ラズ數里ノ外ナル市場ニ往然ルニチロルノ

人民多クハ狩獵ヲ以テ世ニ知ラル常ニ羚羊

其他獸畜穿鑿ノタメ自國ノ山林ニ入り數日

ノ間遍歴レテ家ニ歸ラサルコアリ此時ニハ

日光ノ映射ヲ避ルタメニ青色ノ帽子ヲ戴キ

且險阻ニ攀躋スル時其身ヲ支エシガタメ豫
メ尖銳ナル鐵ヲ付タル杖ヲ持シ其肩ニハ糧
囊ヲ擔ヒタリ

チイセル山中ニハ大理石ニ類スル黄色ノ石
ヲ生スオウギユスブルグニ於テ未タ坐氈ノ
需用ナキ前ニハ之ヲ取テ家室ノ床板ニ敷キ
用ヒシトゾ

問當時恒加利一般ノ景况如何ナルヤ
答當時恒國ノ人民多クハ農ト牧トニシテ專

ラ牛馬綿羊ヲ數多養ヒ且穀物モ亦夥多ニ生
長レ英國ニテ一レルリングノ麵包ヲハニペ
ンスニテ買ヒ得バレ恒人穀物ヲ棧房ノ中ニ
儲蓄セス地ニ穴ヲ穿ツテ之ヲ蔵メ置キ土耳
其人ノ急撃ニ遇フ時ハ妻子眷屬ト共ニ皆此
穴ニ潛伏シテ屬其難ヲ逃レタリ
恒人未タ藩鎮ノ所屬ヲ免レス國產ヲ公ニ分
領レタル藩主ノ臣タリ此ノ如ク自由ヲ得サ
ルト雖モ波希米亞ト違ヒ奴隸ナルモノ更ニ

時長
時長
時長
時長

教
教

時長
時長
時長
時長

有ルヲナレ波國ニテハ當時猶奴隸衆多アリ
テ常ニ之ヲ賣買セリ
恒人一般馬術ニ長ス故ニ其衣服常ニ乘馬ノ
修行ニ便利ナル可ク之ヲ製シ上衣ハ固ク體
ヲ封レテ衣邊甚タ短ク革帶ニテ之ヲ腰ノ周
圍ニ結ヒ衫衣ハ其長ケ短ク套袴細クシテ體
ニ著キ其他長鞋皮帽ヲ著レタリ
上衣ハ一般黄青色又ハ薄藍色ノモノナリ恒
人華美ノ色ヲ好ミ僧ト雖モ紫色ノ衣服ヲ著

セリ

牧養人ハ通例長キ羊皮ニテ毛ヲ内面ニ返シ
タル上衣ヲ著シ其下ニ小衫并蘇布ノ褲ヲ穿
テリ恒國ノ中ニハ少女黒色ノ脊心緑色ノ裙
衣紅色ノ長鞋ヲ穿テリ婦人ノ事業トスルモ
ノハ多クハ紡績造管等ナリ
恒國ノ中ニ學校ナレ故ニ紳士ハ止ムヲ得
ス其子弟ヲ維也納或ハプラダニ留學セシム
其中ニテ兵士トナルモノ多シ

時長

卷七

士

文部省

問 埃國所領ノ中僅カ開化シタル部分ハ何地ナルヤ

答 埃國諸領ノ中開化少キ土地ハトランシル
_{ズニ}ニヤナリ此地ノ人民鄙野ニシテ草廬ニ住
レ多クハ群畜ヲ牧養スルヲ以テ生計ヲ營ミ
而ノ常ニ復隣ヲ好ミ又甚々懶惰ニシテ飲食
閑眠ニシテ多ク日ヲ送レリ

問 トランシル_{ズニ}ヤノ管治如何ナルヤ
答 トランシル_{ズニ}ヤノ管領ヲ_{ズニ}井_{ズニ}ヲ_{ズニ}ド

ト稱シ其都府ヘルマンス多ドニ住ス薩沙尼
人之ニ住シ甚々好都ナリサレド總テ其他ノ
都府ハ貧村ニ類スル者ニシテ大抵ハイジ_ツ
クト稱スル人種此處ニ住ス是ハ復讐ヲ好ム
人民ニシテ戦争ノ時ハ兵卒トナリ和平ノ時
ハ牧士_{ウレカヒ}タリ
土地ノ人民紡織ノ外都テ緊要諸術ヲ知ラス
素ト紡織ノ技ハ往古野蠻婦人ノ事業タリ故
ニ之ヲ以テ開化ノ證トナスヘカラス

トラシシルズニヤハ歐洲ニテ最モ富饒ナル
 國ノ一ニシテ耕作ノ功ヲ施セバ五穀果實ノ
 生熟セサル地ナレ然ルニ土人怠惰ニシテ開
 墾ヲ勤メバ沃土ト雖モ空シク荒廢セリ
 問日國諸都府一般ノ景況如何ナルヤ
 答日國各都府ハ當時一般壯麗ニシテ家宅良
 好人口稠密ニシテ且富盛ナリ各其地ノ規則
 アリテ保官之ノ管轄シ都府ノ周圍ニハ堡砦
 ヲ構フルモノ多シ是當時都府屢攻圍ル事

アルヲ以テ甚々必用ノ防禦トナリタリ
 前ニモ記シタル如ク日人ハ總テ器械ノ術ニ
 長シ玩弄物自鳴鐘時辰鏢等ノ製造ニ至テハ
 其巧妙久シク世界ニ冠タリ

第二十三編

維也納ノ圍ミヨリ相續戰爭ノ結局ニ至
 ルノ事紀元千六百八十三年ヨリ
 同千七百十一年ニ至ル
 維也納ニ於テ土耳其人敗走ノ後佛王路易十
 四世新教徒ヲ罰シ且ナンツノ免許狀ヲ廢ヤ

一ノ三ノ四
一ノ三ノ四

シニ依テ數万ノ諸職人他國ニ放タレ多ク普
魯士并ニ日耳曼ニ來住セリ

問當時普魯士ニ如何ナル變革ノ起リシヤ

答當時普國ノ變革ハ此國初ムテ建テ、王國
トセラレシ事ナリ其以前迄ハ唯侯國ニシテ

日國中ノ一小國ナリ

問普國前古ノ大略ヲ舉ヨ

答日國ノ古代ニ於テ當時ノ普國ハ北方邪宗
ノ人種住居セレガ竟ニチウトニツクノ驍騎

黨之ニ伐チ勝チ三百年餘此國ヲ司牧シ紀元
千五百年代ノ初ニ不頼的不尔克公阿尔麦チ
ルモノ此黨ニ主宰トナリ曩キニ驍騎黨ノ改
宗セシ如ク又己ノ宗旨ヲ變ヘシユヘ其黨甚
タ減少セリ

問驍騎黨如何ナル處置ヲ受ケタルヤ

答既ニシテ波蘭人此驍騎黨所屬地ノ部分ヲ
取りタル事アリシユヘ當時阿尔麦新教宗徒
タルヲ以テ叔父波蘭王ニジスムレト一世ト

カヲ戮セ其頃驍騎黨ノ有シタル土地ヲ悉ク
奪ハン事ヲ約シ若シ幸ニシテ其功ヲ遂ルニ
於テハ阿爾麥ハ波蘭人ノ往キニ取りタル總
餘部ヲバ波王ノ附庸トナシテ自ラ之ニ公ト
ナリ以テ公爵ヲ得ント欲セリ

問普國如何ニ分割シタルヤ

答阿爾麥ノ企望成テ普國既ニ分割シ阿爾麥
其一ヲ領シ之ヲ普ノ公國ト稱ス波蘭王他ノ
部分ヲ有シ之ヲ普ノ王國ト稱セリ

問普國ノ建國ハ何世ニシテ其始祖ハ誰ナルヤ

答此時ヨリ紀元千七百一年マテ不頼的不尔

克ノ主選者普國公タリレガ啡哩特ノ代ニ當

テ西班牙ニ於テ相續ノ戦争起リ其時啡哩特

ハレヲポルド皇帝ノタメニ軍役ヲ勤メシニ

因リテ帝其勲勞ニ酬ヒシ為メ之ヲ普國ニ封

シ王ト為シタル故始テ王國トナリタリ

問大主選者ハ誰ナルヤ

答普國初代ノ王啡哩特ハ維廉ノ息男ナリ維

廉曾テ國ヲ治ルコトニ勉カシテ其徳大ナルガ
ユヘニ大主選ノ稱ヲ得タリ
啡哩特ハ普國ヲシテ波蘭王ノ附庸タラシメ
ス新ニ獨立國トナシタル初代ノ國王ナリ
問啡哩特ハ佛國ノ新教徒ニ如何ナル利益ヲ授
ケタルヤ

答近頃佛王路易十四世是迄新教徒ノ維持ス
ル特恩ヲ剥キ加之教徒ヲ他國ニ放逐セシガ
大主選者ハ多クノ流人ヲ領内ニ納レテ居住

セシメ之ニ遇スルニ仁惠ヲ以テシ宗徒ヲ不
賴的不尔克及ヒ普國ノ各部ニ於テ安ク生計
ヲ得セシメタリ

問新建ノ普國故人ヲ如何處置セシヤ

答夫ノ善徳アル普公死シ其嗣啡哩特亦故人
エノ待遇ヲ變ゼス立ツテ王タルノ後土地ヲ
宗徒ニ與ヘ而メ其稅ヲ取ラス却テ宗徒ノ為
メニ禮拜堂ヲ建テ之ガ住僧所得ノ利益ヲ定
メタリ

問普王斯ク仁惠ヲ施シ其身ニ如何ナル利益ヲ得タルヤ

答普王寛裕ノ處置アルニ依テ不頼的不尔克主選者ノ所領及ビ普ノ王國ニ至ル迄新規術藝并ニ製造ヲ導キタルユヘ其利益唯宗徒ニ止ラス王ノ躬ニモ及ヘリ

問日國ノ中佛國新教徒ノ居住ヨリ其他ノ利益幾何ナルヤ

答日耳曼各國ノ王公等味哩特ニ倣ヒ佛國ノ

新教徒ヲ勸メテ其國ニ居住セシメ之ガ助ケ

ニ因テ紀元千六百九十三年ハンブルグニ美

麗ナル檯布并ニ蘇布等ノ製造所ヲ設立セリ

先是英人之ヲ佛國ヨリ取リテ供給セシカド

モ自今ハンブルグニ取ル事トナリタリ是全

ク佛王暗愚ニシテ殘忍ナルユヘ自國ノ斯ル

大利アル者ヲ失ヒ却テ他國ヲ增益セリ

普國ニアル佛ノ人民早クモ都府伯靈ニ數多

ク新街ヲ開クク富強ニ至リ府内ニテ衆人ニ

聖書

卷七

聖書

尊敬セラル、モノトナリタリ

問 西班牙ノ相續戦争ノ所由如何ナルヤ

答 相續戦争ノ所由ハ皇帝レヲポルド殂落ノ

前一二年西王查尔斯二世死ニ臨ンテ佛王路

易十四世ノ孫非立ヲ相續入ト定ム可シトノ

遺言アリ然ルニ皇帝ノ次子奥公查尔斯ハ此

遺言ノ應サニ憑據ス可キヤ否ヲ頻ニ討議シ

竟ニ是ヨリ歐洲一般ニ關スル一大戦闘ヲ醸

セリ之ヲ西班牙相續戦争ト號ス

問 西班牙ノ王位ヲ企望シタル王侯等如何為セ

シヤ

答 西國ノ王位ヲ競フ王公等ハ各西國七君ノ

親族タルヲ以テ迭ニ其位ヲ企望セシカトモ

西人已ニ非立ヲ選ヒ即位セシメ西國ノ王ト

セリ是ニ於テ佛國路易ノ敵ハ咸ナ奥公ニ左

祖ニ英王維廉モ其中ニ在リシカ王死シ女主

安ニ至リテモ仍其戦ヒヲ止メサリシナリ

問 此戦争ノ始リ如何アリシヤ

聖書

卷七

十九

聖書

皇朝史略

卷七

茲語

答非立西班牙ニテ位ニ即キシカハ帝レヲポ
ルド速カニ以太利ニ於テ米蘭公國及ヒ其他
ノ領地ハ西國ニ属スル日國ノ所領タル由ヲ
嚴言シ且ツサオ井公ノ孫ナル王族エウゼント
稱スル高名ノ人ヲシテ軍勢ヲ總督セシメ始
メテ兵端ヲ以國ニ發キ其後日西兩國ニ推シ
及セリ

問此頃如何ナル都府ヲ誰カ建立セシヤ

答當時魯西亞ノ彼得大王其國ニ聖彼得堡ト

セントペートルスブルグ

云フ新都ヲ建立スルノニ專ラ關セリ
問相續戦争ノ間ニ起リタル他ノ戦争ハ何ナル

ヤ

答魯王彼得國ノ貿易ヲ盛大ニセントテ其國
ヲ廣メ黒海ニ一港ヲ有センコトヲ謀リシニ由
テ一戦争起レリ素ト黒海ノ港ハ瑞典ニ属ス
ルヲ以テ此國ト戦争ヲナサスンバ自ラ之ヲ
領スルコト能ハサルユヘ魯王已ニ大勇者ソビ
スキニ繼キタル波蘭王啡哩特オーギユスチ

皇朝史略

卷七

二十

文部省

日耳曼史略 卷七

文部省

スラシテ瑞典王查爾斯十二世ト戦争ヲナス
トニ與カラシム時ニ瑞王年猶幼ナリシガ生
ナガラ雄偉豪邁ノ風アリ

問此戦争ヨリシテ波蘭王如何ナル景況ニ至リ
シヤ

答查爾斯十二世ト彼得大王トノ戦争ハ波蘭
ノ事ニ關スルト他國ヨリモ多シ其故ハ查爾
斯味哩特オギユスチヌヲ廢シ他ノ國君ヲ
王位ニ即カシム此ニ於テ彼得ハ信友同盟ノ

義ヲ立テ之ヲ扶ケントシ新ニ争端ノ開クル
事トナレリ彼得及ヒ查爾斯ハ惟一己ノ戦争
ニノミ從事シテ西班牙相續戦争ニ與カルノ
暇アラズ然ルニ此兩戦争ノ間歐洲諸國一ツ
モ安静ヲ得タル者ナレ

問近頃軍將ノ中誰カ最モ殊勝ナルヤ
答相續戦争ニ於テ殊勝ノ一人ト云フハ英國
ノマルボロウ公ナリ此人英國史ニ見エタル
ブレンヘイムノ名高キ戦ニ勝利ヲ得シ者ナ

日耳曼史略

卷七

三

文部省

日耳曼史略
卷七
一

六
語

問
グレンヘイムノ戦争何時起リタルヤ

答
此戦争ハ英國女王安ノ初年ニ起リ日帝レ
ポールド紀元千七百五年殂落以前ノ事ナリ

問
英國嗣立ノ王西班牙王位ニ關セシハ何故ナ
ルヤ

答
是ハ己ニ佛王路易十四世英國人民ノラレ
ンジノ王族維廉ヲ選テ君トスル志願ニ恃リ
強ヒテ同國ノ先王ゼエムスヲ其王位ニ復立

セントレタルユヘ英國ノ王等專ラ此戦争ニ
於テ拔羣タラン事ヲ勉ム且、女主安死スルノ
後何故日耳曼ノ一王族英國ノ王位ニ昇ル事
トナリタルカ今茲ニ解明スベシ

問
英國現今ノ女主ヲ尋得ベキヤ
薩沙尼公顯理

答
現今ノ女主ハ名高キ薩公顯理
ノ苗裔タル原由ヲ尋得ベキヤ
ル事己ニ之ヲ説ケリ顯理ノ男ブロンス
キ公タリ其所領ハ紀元千五百四十六年ニ至

日耳曼史略

卷七

五

文部省

ルマテ之ヲ世襲ス時ニ^チクツクユル子スト死
シ其領地ヲ二分シ一ヲブロンズ^クキルン
子ンフルグ、^クドル左ン、^クブウトルト名付ケ一ヲ
ブロンズ^クキルン子ンブルグ^クセイルト名
付ケ各領主アリテ之ヲ有セリ
當時相續戦争ノ間ブロンズ^クキルン子ン
ブルグ^クセイイルノ領主エル子スト、^クオ、^クギユスチ
ウスハ皇帝ニ大ナル扶ケヲナセ^シ故ニ帝之
ヲ主選者ノ職ニ^ニ舉ケ且^シ亞諾威^ルハ^ハオ^リギ^ユ

スチウス所領ノ都タルヲ以テ亞諾威^ルノ
主選者ト称シケリ^オー^ギユスチウスハ主選者
パラチ^キンノ女ヲヒヤ^クヲ娶レリ此主選者ハ
往キニ三十ヶ年戦ノ頃波希米亞ノ王トナリ
其後日國ヨリ追放セラレタル人ナリ
主選者パラチ^キンノ配ハ英國ゼイムス一世
ノ女兒ナリ故ニエル子スト、^クオ^リギ^ユスチウ
スニ嫁スル所ノ王姫ソヒヤハゼイムス一世
ノ孫女ニシテ英國女主安死スルノ後ソヒヤ

ノ息男ゼラルジハ王位ヲ踏ムニ切近ナル新
教ノ家督人タルヲ以テ大英國ノ王トナル是
ハ既ニ維廉三世ノ時ニ總テ舊教ノ王族ヲシ
テ王位ヲ相續セシメザルトノ法令ヲ出セシ
ニヨレリ

問皇帝レヲポルドニ繼テ誰カ相續セシヤ

答皇帝レヲポルド殂シ太子ジヨセフ嗣テ立
テ在位纔カニ六年ノ間ニ戦争ノ休ム時ナカ
リシナリ

問數多ノ戦争何地ニ在リタルヤ

答マルポロウ公王族ユウゼン及ヒ其他數多
ノ大將ハ以太利日耳曼發蘭德等ニ於テ戦ヒ
又アルナジク查爾斯ハ西班牙ヲ以テ戦地ト
ナシ又魯西亞帝ト瑞典王トノ戦ヒハ一ツモ
相續戦争ニ關セサリシガ各自己ノ為メニ多
クハ波蘭及ヒ魯西亞ニ於テ戦ヒタリ
問騒亂ニ就テ最モ困苦シタルハ何ノ人民ナル
ヤ

日耳曼史略

卷七

諸國

諸斯ル貧乏ノ氓民其深切ヲ感謝セシハ勿論
ナレ氏決シテ其曾テ故郷ニ在リタル如クノ
幸福ナルヲ能ハス

問相續戦争如何ニ終リシヤ

答相續戦争十年ニシテ稍ク休止ス先是皇帝
ジヨセフ遽ニ殂シ是ニ於テアルチヰウク查
爾斯續テ日耳曼皇帝トナレリ往ニ英國政府
及ヒ其他諸國西班牙ニ於テ帝ノ利ヲ計リシ
者モ今ハ安如公非立ラシテ安ク西國ノ王位
アレゾラ

ヲ踐マシメントセリ諸王此ノ如ク異見ノ生
スル所以ハ原ト一君ヲ以テ日西ヲ併有シテ
之ヲ支配センムルハ各國ノ好マサル所ナリ
蓋シ此ノ如クナレバ查爾斯ノ威權限リナク
盛大ニ至リテ自然歐洲諸王ノ權力ト平均ナ
ラサレバナリ

問權カノ平均ト云フ事如何ナル謂ナルヤ

答當時諸國政府一般權力ノ平均ト號スル者
ヲ守ラントス是ハ強國ト雖モ弱國ヲ凌クヲ

日耳曼史略

卷七

二六

文部省

日耳曼史
卷七

能ハズ一國強ナレバ餘國之ヲ壓シ一國弱ナ
レバ餘國之ヲ扶ケ各國ノ權力相均シカラサ
ル事ナカラシムルヲ云フ

權力ノ平均ヲ守ル為メニ各國諸王其等輩ノ
中ニテ領地威カヲ分外ニ得ントスルモノア
レバ其等輩共ニ戮力同心シテ之ヲ拒メリ
問和睦ノ條約ハ如何ナルモノニシテ其時世何
頃ナルヤ

答紀元千七百十一年アルチビウク帝位ニ昇

レリ之ヲ查爾斯六世ト稱ス其後一般ノ和睦
決定シ其時ノ條約ニ西班牙王ハニールランド尼達蘭及ヒ
以太利ノ各國ヲ皇帝ニ讓リ又ジブラルタル
ヲ英人ニ讓ル可キ事ヲ以テシ其他讓與ノ地
茲ニ指數シカタレ

第二十四編

查爾斯六世ノ事 紀元千七百十一年ヨ
リ同四十年ニ至ル

問相續戰爭ノ間恒加利ニ於テ如何ナル事ノ起
リタルヤ

日耳曼史各

卷七

七

文部省

此處
曼
略

卷
一

英
國
史

答此戰爭ノ間恒國人民已ニ一揆ヲ起シ佛人
ニ與ミシ皇帝ニ對シテ戰ヒケリ是レ恒人帝
ノ管轄ヲ免レ其國ニ一主君ヲ選立センコトヲ
欲セシニヨレリ

問治安如何ニ恢復セシヤ

答恒人前ノ如ク騷擾スト雖モアルチヂユ
ク查爾斯皇帝ト為リ速カニ恒人ニ與フルニ
寛大ナル特恩ヲ以テシ就中之一與フルニ宗
旨ニ關スルモノ多シ是故ニ帝國ニ治安ヲ恢

復セシノミナラス危險ノ讐ヲ變シテ堅固ノ
信友及ヒ從順ノ臣民トナシヌ

問近頃誰カ英國ノ王位ヲ相續セシヤ

答查爾斯六世即位ノ後凡リ三年英國女主安
死シ日耳曼王族ブロンズキ公ニシテ且
亞諾威ルノ主選者タルゼラルジ一世之ニ
繼キ英國王トナレリ公ノ英國王位ニ由緒ア
ル事ハ己ニ説明セシ如クナリ此ヨリシテ自
然英日二國ノ利益ヲ尚モ連結スル事トハナ

英
國
史

卷
一

二
八

英
國
史

リタリ

問其後如何ナル大王死シタルヤ

答女主安死スルノ次年佛王路易十四世死ス

於是テ皇帝漸ク外虜ノ患ヲ免レタリ

問アレグマタク、サンクシヨント稱スル法令ハ

如何ナル者ナルヤ

答此法令ノ由テ起リシ所以ハ皇帝查爾斯ニ

二女アリテ一ノ男子ナキガ故ニ帝必ス相續

ノ争亂起ラン事ヲ洞知シアレグマチツク、サ

ンクシヨント稱スル法令ヲ制レテ在世ノ間

此主意ヲ確定レ置カント欲セシニ由レリ此

法令ハ其實ハ律令ニ非ス查爾斯其全領并ニ

帝位ヲ嫡女アルチジチスメリア、ゼレエザニ

讓ラントレタル遺囑ト云フニ過ギズ

日國皇帝ノ男子ヲアルチジユクト曰ヒ女子

ヲアルチジユチスト曰フト知ルベシ

問當時日國ノ所領ヲ舉ゲヨ

答當時帝國ノ所領ト稱スルモノハ日耳曼恒

皇朝通志
卷之七

加利波希米亞トレンセルベニヤ境地利亞細勒
西尼達蘭西々里那不勒米蘭及ヒ其外數國且
公國并ニ属地等ヲ包括シ實ニ帝國ハ遺物ノ
甚タ大ナルモノナリ而テ歐洲王公等多クハ
帝國ノ數部ヲ領セントノ請問ヲチシタリ故
ニ帝若シ男子ノ繼嗣ナクシテ殂スルニ於テ
ハ王公等ヲシテ前ノ新令ニ同意セシムル事
易カラズ且王公苟モ同意セサルニ於テハ帝
殂スルノ日忽チ領地ノ争ヒ起リ王公相互ノ

戰爭起ル可クシテ遂ニ帝女ノ其領地ヲ奪ハ
ルニ至レ事ヲ查爾斯甚タ能ク洞視セリ
問歐洲諸王ノ中誰カ前ノ法令ニ一致セシヤ
答帝遂ニ西班牙魯西亞普魯士英吉利及ヒ和
蘭王等ノ一致ヲ得ル事トナリタリ
問此法令ヲ誰カ拒ミタルヤ
答佛蘭西ノ新王路易十五世メリアゼレールガ
ノ相續ヲ聽サス且日耳曼諸國前ノ法令ニ逆
ヒ何レモ政事ト宗旨トノ理ニ基テ利害ヲ辨

皇朝通志
卷之七
三十一
文部省

明セリ

問 プルテイワノ戦争ハ何ナルヤ

答 魯國ノ大王彼得瑞典王查爾斯十二世トノ
戦争近頃止ム時ナク魯國ニプルテイワノ名
高キ戦争アリ時ニ瑞王軍敗レ遁レテ土耳其
ニ到リ茲ニ暫ク滞留セリ

問 瑞王不在ノ間波蘭ニ何事ノ起リタルヤ

答 瑞王查爾斯不在ノ間王ノ既ニ立テ、波蘭
王トナシタルステニスロウス、レクレンスキ

ハ已ムヲ得ス魯帝ノ助力ニタル波蘭ノ前

廢主味哩特オウギステニスニ復位セシメリ此

ニ於テステニスロウスハ其女ヲ携ヘテアル

サスニ遁ル其後久シカラス此女佛王路易十

五世ニ嫁シ佛國ノ王妃トナリタリ

問 ステニスロウス如何ニ再立セシヤ

答 路易尚日國ノ皇帝ニ敵スル事ヲ止メス紀
元千七百三十三年波蘭王死スルニ及テ路易
其舅ステニスロウスヲ同國ノ王位ニ復立セ

皇朝通志
卷之六
三十一

問ステニスロウス復位ノ前誰ガ死シタルヤ

答ステニスロウス復位前ニ魯王彼得大王瑞
典王查爾斯十二世死シタリ

問ステニスロウス再ヒ廢セラレシハ何故ナル

答日國ノ皇帝ステニスロウスヲ選舉スル
ヲ聽サス故ニ佛人ト墺人トハ戦争起リ墺人
毎戰敗北シ帝遂ニ以太利ノ所領數多ヲ讓ル

不利ノ條約ヲナシテ佛人ト和セリ假令佛人

勝利ナルトモ一方ノ敵ナル墺人以國ニ敗走

レタル間ニ一方ニ於テ魯人ステニスロウス

ニ敵シ且波蘭ニ於テ打勝タルユヘステニス

ロウスハ已ムコトヲ得ス波蘭ノ王位ヲ辭シ再

ヒ佛國ニ退去セリ

問メリア、ゼレーザノ情人ハ誰ナルヤ

答アルチジチスメリア、ゼレーザ當時年齒十
八歳英氣大才ノ女君ニシテ國事ノ掌理ヲ命

皇朝通志
卷之六
三十一

諸事
精
十一

セラレン事ヲ恒ニ望ミ居タリシガ竟ニ自ラ
勤メテ之ニ關セリ

メリア性質温和ニシテ容色美麗ナリ常ニ口

ルレ井ン少公フランシスヲ愛戀スルヲ少ナ

カラサリシカ己ニシテ相契ルノ事ヲ遂ケタ

リ帝此文媾ヲ好シトシテ答メサルヲ以テ幸

ヒトナリタルト見ヘタリ

問 ロルレ井ン 公累代ノ遺領ヲ失ヒタルハ何故

ナルヤ

答 ロルレ井ン 公前ノ如ク女君ト親愛厚キニ

由テ最多幸ナリシカトモ佛王ヨリ皇帝ニ宣

言シタル條約ニテ其幸福モ消滅スルヲトナ

レリ其條約ニ云フ所ハ ロルレ井ン 公ノ所領

ハ總テ佛王ニ讓ルベシ其報トシテ夫ノプレ

グマ悉クサンクレヨンノ新令ニ同意シ且佛

王最早波蘭ノ事ニ関涉セザルトノ事ナリ時

ニ公累代受領ノ地ヲ失フハ實ニ如何トモス

可ラサル事ト思ヒ甚タ心痛セリ是以テ其償

物語各 卷七 三十三 支那

トレテ領主ノ己ニ老死シテ空領トナリタル
 タスケニ一ノ大公國ヲ賜ルト雖モ最初ハ更
 ニ承引セサリシナリ
 タスケニ一ハ素公ノ生國ニモ非ス又先人等
 ノ本國ニモアラサルユヘ拒ンテ之ヲ受ケザ
 リシガ皇帝ノ重臣ニテ當時威望高キコオン
 トベルレンステインナル者公ニ向ツテ曰ラ
 ク君、公國、或ハ女君、ノ内何レヲカ棄テサルヲ
 得ス夫レ是ヲ擇フ可シト

問 ロルレ井^ン國ヲ誰ニ與ヘタルヤ

答年少情人最早猶豫ナリ難ク夫ノ良士ナル
ロルレ井^ンヲ佛國ニ合併セラレ曩ニ流寓セ
 シ波蘭ノ舊君ステニスラウス、レクシンスキ
 ニ與ヘラレ舊君其死ニ至ル迄ロルレ井^ンニ
 公タリ

フランシストメリアセレーザノ婚禮漸ク成
 リシハ紀元千七百三十六年ナリ於是テフラ
 ンシスハタスケニ一ノ國主トナリタリ

皇朝通志卷之六十五

問此婚禮ニ依テ如何ナル親族結合シタルヤ

答此婚禮ヨリシテ奧地利亞古家ノ二族合併セリ是ハ嘗テ紀元六百年ノ前キニ別レタル者ニシテ當初一人ノ領主エジイコナルモノ己ノ領地ヲ二分シテ之ヲ二人ノ男子ニ與ヘ其一人ハ波布斯堡家又一人ハロルレ井ン家ノ創造人タリ是迄千年餘モ各分家相續ヤシカ茲ニ至ツテ一方ノ嫡子一方ノ嫡女ヲ娶リ再ヒ一家ニ歸セリ

問查爾斯六世ノ代土耳其人如何ナル要都ヲ取リタルヤ

答此名高キ配偶ノ婚禮成ルノ後直チニ奧人ト其舊敵ナル土人トノ戰爭起リ甚タ日國人ノ不幸トナリタリ其故ハ縱令日人戰勝ツトモ實ニ利益ナク且軍費ヲ償フ為メニ國人甚タ嚴シク租稅ヲ取立ラレタレバナリ皇帝強ヒテ此戰爭ヲナシタルユヘ世人帝ヲ志慮近淺ナル人ト見做セリ奧人ノ常ニ勁敵

皇朝通志卷之六十五

三十五

皇朝通志
卷之九
地理志
歐洲
土耳其

ヲ禦ク要害タルベルグレードノ堅都ヲ土人
ノ為メニ攻取レシヲ見レバ果シテ然リ

問土耳其人ベルグレードヲ如何ニ據有セシヤ

答皇帝ハ將帥等尚ベルグレードノ要害ヲ防
クノカアルト思ヒシニ、圖ラスメ己ニ此都府
ヲ土人ニ渡シテ和睦ヲナス事トナリタルト
ノ說ヲ聞キ大ニ悲歎シテ甚ダ不快ニ思ヒシ
ガ此說一般トナリタルユヘ將帥等盡ク囚レ
各所ノ城ヘ護送セラレ翌年查爾斯ノ殂落ノ

日迄幽閉セラレタリ

問日國所領ノ中又何レヲ土耳其人ニ讓リタル

答ベルグレードノ外ニ尚又タルレシヤ及ヒ

セルピヤノニ良國ヲ土人ニ讓レリ

問ゼシイツ宗徒是等ノ地ヲ失ヒ不快ナルハ何
故ナルヤ

答奧國ノ中ゼシイツ社友ノ者共夥シクアリ
殊ニ前二國ノ内ニハ良田沃土ヲ有シ居タル

日
曼
史
田
卷
七

ユヘ各土地ヲ失フヲ大ニ不滿セリ加之ベル
グレードノ郭内ニハ宗徒ノ學校數多アリ是
モ直チニ耶蘇教總宗派ノ敵ナル土耳其人ノ
タメニ解散セラレバナリ

問 查爾斯六世ノ殂落ハ何頃ナルヤ

答 查爾斯六世紀元千七百四十年ニ殂ス其在
世中ゼシイツノ事件ヲ以テ最後ノ大事トセ
リ日國ハ前ノ不利且多費ナル戰爭ノタメニ
甚タ微弱窮乏ノ形勢ナリシカドモ查爾斯ハ

性質善美各般ノ藝術製造等ヲ勸奨シテ民ノ
幸福ヲ高クセント欲シタル國君ナリ

問 查爾斯ノ代ニ如何ナル製造物大成ニ及ヒタ
ルヤ

答 查爾斯ノ代ニ薩沙尼ニ於テ陶器ノ製造甚
タ大成セリドレスデン陶器ハ此陶器製造ノ
石ト稱スル延命石ヲ穿鑿セシガ原ヨリ其功
ナク遂ニ東國ノ陶器ニ彷彿タルモノ造出セ
レモノ世界ノ中ニ最モ著名ナルモノナリ

問 日國如何ニ開化セシヤ

日
曼
史
田
卷
七

三
七

支
那
省

答查爾斯王領ノ中ニ數多ノ新道ヲ作り且ツ
ルレシヤニ徧ク往昔羅馬ノ舊路ヲ補理セリ
然レモ帝若シ土耳其人ノ是地ヲ將ニ奪ハン
トシタルヲ知リタランニハ恐クハ此事業ヲ
做ス事ナカルヘシ

問皇帝文學ト術藝トヲ如何ニ勸奨セシヤ

答皇帝查爾斯專ラ文學術藝ノ諸學科ノ保主
ニシテ畫學彫刻術ノ學校ヲ再興シ及ヒ公ケ
ノ看書房數多ノ書ヲ置イテ浴ク人ヲ建造セ

リ帝音樂ヲ好ムヲ最モ甚ク自ラ戲曲ヲ
作り宮中ノ劇場ニ於テ之ヲ奏シ自ラ舞臺ニ
臨テ其技ヲ施シケリ

查爾斯ニ從フ樂人等歐洲ニ殊勝ノモノト謂
ハレシガ是眞ニ然ラン其故ハ日人現今ノ如
ク當時世界ノ中ニテ至巧ノ樂人タレバナリ
問ドレスデンノ陶器ヲ造ル術ヲ查出セシハ何
頃ニシテ又誰ナルヤ

答ドレスデン陶器ノ名高キ製造ノ事ハ前ニ

第二十五編

メリアゼレ一ザノ事 紀元千七百四十年ヨリ千七百八十年
ルニ至

メリアゼレ一ザ年僅ニ二十四歳父王ノ殂落ニ依テ奥地利家ノ大領ヲ相續セリ
既ニ先帝ノ勤力ニ依テ歐洲ノ王公等プレグマチック、サンクレヨンノ新令ヲ承認シ皇女ノ權利ヲ妨ケサル事ヲ約セシカトモ帝殂スル後幾クモナク列公ノ中ニテ多クメリアノ所

領ノ諸部ヲ自有セントノ討問ヲナシタルモノアリ

問少女皇其承繼ノ諸領ヲ保有セントテ如何ニ苦慮セシヤ

答巴華利亞ノ主選者查爾斯阿爾麥ハヘルジ

ナンド一世ニ繼リ可キ嫡嗣タルヲ以テ波希

米亞王國ヲ己ニ屬スルノ權アリトシ又薩沙

尼ノ主選者ニシテ波蘭ニ王タルオーギュスチ

スハ其配皇帝ジヨセフノ嫡女タルノ由緒ア

ルヲ以テ墾地利亞全國ヲ有セシメテ要ム又
西班牙王非立五世佛王路易十五世普王味哩
特等モ各々籍口ヲ設ケ其慾ヲ充タシメン
トセリ此時ニ方テメリア若シ同心協力ノ者
ナキニ於テハ速ニ總テノ領地ヲ失フニ至ル
可シ

問誰カメリアヲ助ケタルヤ

答メリアノ友人ニテ彼ニ戮カシタル最モ有
力者ノ一人ハ英王ゼラルジ二世ナリ英王戰

争ノ間勉メテメリアヲ擁護シ仍且自ラ亞諾
威爾ノ師ニ將トシテ戦ヒタリ

問當時日國ニ於テ患難ノ原因如何ナルヤ

答此頃日國餉食ノ窮乏ト且高價ナルトニ因
テ苦メラル是ハ土耳其人ト前キノ戦争アリ
シニ由レリ故ニ維也納ノ下民沸騰シテ事已
ニ重大ニ及ヒ加之嚴霜ノ為メニ葡萄ノ果實
ハ皆傷ラレ造酒ノ地方ニ於テ數万ノ農夫其
業ヲ廢シ且貧民其妻孥ヲ養フ事能ハサルニ

甲斐國
卷六

至ラシム是ニ於テ各黨ヲ結ヒ王公ノ所領ニ
侵入シ或ハ野獸ヲ驅逐シ或ハ之ヲ殺セリ
斯ル騷擾ノ際ニ方テ普人將ニメリアノ所領
ニ侵入セントシケリ

問メリア、ゼレীগザ如何ナル尊號ヲ取りタルヤ

答メリア、ゼレীগザズレスブルグニ至リ恒加
利女王ノ位ニ即キ自後恒國ノ女主ト稱セラ
レタリ

斯テメリア恒國先代ノ諸王ヨリ屢國人ト結

ヒタル誓ヲ承受シテ國民ヲ喜ハセシニ由リ
恒人女主ノ為メニ勉メテ一致ヲナセリ
此誓ニ依テ女主親ラ人民ニ約スルニ若シ人
民其權利ノ將ニ奪ハレントシタル時ハ常ニ
自カラ之ヲ拒カントテ戦争ヲ為スノ權ヲ與
ヘ之ヲ討議セサル事ヲ以テセリ或ル他國ノ
古風ニ慣ヒ即位ノ時女主馬上ニテプレスブ
ルグノ傍ナル小山ニ上リ天下ノ敵ヲ輕スル
ノ意ヲ表シテ露刃ヲ以テ山ノ四隅ヲ拂ヒケ

甲斐國
卷六

文部省

リ此儀式終リシ後女主恒國ノ城ニ國會ヲ呼
ヒ集メ頭ニ冠ヲ頂キ腰ニ劔ヲ帶ヒ威風森々
トシテ威儀甚々重ク静ニ議院ニ入り寶座ニ
就キ各都府ノ代貢ニ談話スルニ恒國一般ニ
用フル所ノ羅馬語ヲ以テセリ

問恒加利人忠義ヲ如何ニ證シタルヤ

答女主ノ談話終ルノ後出席ノ者皆奮起シテ
劔ヲ半ハ拔キ叫ンテ曰我等女主ノ為メニ死
ヲ致ス可シ希クハメリア、ゼレীগザノ萬壽ナ

ラシ事ヲト

問女主即位後初メテ做シタル重事ハ何ナルヤ
答恒國女主ノ初メテ注思シタルハ先ツ親ヲ
輔相ノ任ニ居テ良人ニ政權ヲ分與シテ安然
タラシメントセシ事ナリ而テ女主ノ民ニ愛
セラル、ト實ニ深ク國人彼ノ良人ノ權勢ヲ
堅立セントテ輒ク集會スルニ至レリ
此時女主自ラ幼子ヲ抱キ國人ノ前ニ出テ之
ニ語ルニ其記得ス可キ事件ヲ以テス曰ク朋

友我ヲ棄テ衆敵我ヲ苦メ近親我ヲ伐ツ今唯
汝等ノ忠勇ト自己ノ堅心トヲ恃ムノ外男ニ
籌策アルナシト
予今汝等ニ主君ノ息男ヲ附託ス可シ兒素ト
汝等ノ保護ナクンバ別ニ安全ヲ得ルノ路ナ
シ夫レ之ヲ注思セヨト
恒人ノ性粗猛オレドモ今其少キ女主ノ美態
憂色ヲ見ルヨリ各其劍ヲ拔キ叫フ事前ノ如
シ曰ク臣等女主ノ為ニ死ス可シ嗚呼メリア

羅曼史
卷七
諸

ゼレーザト
問女主メリア、ゼレーザノ軍何ヲ以テ編成レタ
ルヤ

答即位後ノ諸戦争ニ於テメリアノ軍隊多ク
ハ恒人ニテ編成セリ從來恒國ノ軍隊ハ整齊
ナラズ只烏合ノ勁徒ニシテ一ヲクロオツ一
ヲハントウルス一ヲスクラウニヤンスト號
レ各其来ル所ノ地名ヲ取テ名ケレモノナリ
此輩形状ノ猛烈ナルト且野蠻印度人ノ暴撃

羅曼史
卷七
四十五
文部省

皇朝通志

卷七

文部省

ニ似タル戦争ノ方法トニ依テ佛日ノ軍勢却テ整熟ナル兵隊ヨリハ之ヲ畏怖セリ
問女主ノ受領ノ内列侯ニ奪ハレタルハ何地ナ
ルヤ

答女主恒國ニ在ル間普王味哩特自ラシレシヤ
全國ニ主タリ又佛人巴華利亞人薩沙尼人等ハ奧地利亞并ニ波希米亞ノ過半ヲ占據セリ

問巴華利亞ノ主選者如何ナル尊称ヲ取タルヤ

答巴華利亞ノ主選者プレエグノ都府ヲ圍ミ之ヲ取り波希米亞王ト称セラレタリ時ニ紀元千七百四十一年ナリ其後フレンキホルトニ於テ日耳曼皇帝ニ選レ立テ帝位ニ就ク之ヲ查爾斯七世ト號シタリ

問主選者大徳ノ次第如何ナルヤ

答主選者前ノ如ク其躬ニ尊稱ヲ帶ルト雖モ帝タルノ権力ヲ以テ敢テ足レリトセズ其徳心ノ厭ザルヨリシテ遂ニ巴華利亞ノ領地ヲ

皇朝通志

卷七

四六

文部省

失ヒタリ既ニ主選者立テ帝タルノ日恒人チ
ロルノ土人ト合體シ巴國ニ入寇シテ大都ミ
ウニツクヲ取りタレハ新帝其名ハ皇帝タレ
凡其實ヲ得ザリシナリ

查爾斯七世在位僅ニ四年死ニ臨ンテ其攝政
ニ云ヘル言ニ予悔ユラクハ斯ク困難ト損失
トヲ發出シタル外別ニ得ル所ナキ寶位ヲ往
キニ欲シタルヲ豈惑ヒニ非スヤ

問波希米亞ニ於テ如何ナル事件ノ起リシヤ

答近頃奧地利亞人ハ女主人良人ロルレ井ン
公フランシスノ下ニ在リテ既ニプレエグヲ
取リメリア、ゼレーザハ波希米亞ニ主タリ
是ニ於テ盛大ナル饗宴ヲ設テ之ヲ祝ス其内
ニ競車ノ式アリ是ハ往昔希臘人ノ專ラ執行
シタルモノニ彷彿タリ只プレエグニ於テハ
女子之ヲ做シ希臘ニテハ御者之ガ競士タル
ノ差異アルノミ

問大勝利ノ戦争ハ何地ニシテ誰ガ之ヲ得タル

皇朝通志
卷之七
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

答 奧人波國ニ在ル女主ノ敵ト戦ヒタル間亞
諾威人ハ女主ヲ日國ニ助ケテチンゼンノ
戦争ニ英王ゼオルジ二世佛人ヲ敗リ大ニ勝
利ヲ得タリ

問 〆チンゼンノ戦争ニ就テ記得スベキハ何ナ
ルヤ

答 此戦争ニ於テ最モ記得スヘキノ一事ハ此
戦争ヲ以テ英王ノ自ラ關セン戦ノ最モ終リ

ノモノトス可キヲナリ

問 日國ニ於テ國事ニ如何ナル變換アリシヤ

答 查爾斯七世紀元千七百四十五年ニ殂ス是

ニ依テ日國ノ景况大ニ變換セリ

ロルレ井ン公フランシス帝位ヲ求需スル者

ノ一人タリ又查爾斯七世ノ息男巴華利亞ノ

幼公其國ノ主選者領ヲ有セン事ヲ約シテフ

ランシスノ即位ヲ發言セリ是ニ依テフラン

シスモ亦主選者領ヲ幼公ニ付與セリ其後直

日耳曼史略 卷七
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

チニ夫ノタスケニ一ノ太公タルロルレ井ン
ノフランシス日耳曼皇帝ニ選バレ此時女皇
ヘ井デルブルグニ於テ軍勢ト公ケニ宴會ヲ
催シ兵卒コトニ金錢一片ヲ與ヘリ

問當時英國ニ於テ何事ノ起リタルヤ

答當時スチユアルト家ノ王族查爾斯ナル者
英王ゼラルジ二世日國ニ滞陣シタルノ虚ニ
乘シ大英國ノ王位ヲ回復セントス故ニ此王
族ノタメニ蘇格蘭ニ於テ一揆起リ此事日國

ニ聞ヘシカバ往ニ國王ゼラルジニ從ヒ日國
ニ在リテ此國ノ女皇ヲ助ケ戦争ヲナシ居タ
ルキエンバルランド公叛臣追討ノ命ヲ受ケ
テ師ヲ旋シ其後速カニ王モ亦歸國セリ
問日國ニ於テ戦争何頃如何ニ終リシヤ
答日國ノ戦争ハ四年ノ間續キ紀元千七百四
十九年エイラレマペイルニ於テ和睦ノ條約
決定シ女皇總テノ領地ヲ保有レ只シレシヤ
一國ヲ以テ普魯士王ニ讓レリ

日耳曼史略 卷七 甲九

是ヨリシテ日國治安愈續キ其間ニメリアゼ
レ一ガハ專ラ諸戦争ヨリ生レタル禍患ヲ除
却スル一ニノミ勤勞シケリ實ニ此事ヲ以テ
女皇ノ恩愛アル心性ヲ見ルヘシ
メリアゼレ一ガ實位ヲ確守スルノ氣象アリ
之ニ加ルニ英國女主エリサペスノ如キ治國
ノ才ヲ兼ヌレ能ク衆ヲ愛シ家人ニ至ルマ
デ深切ヲ加ヘ且敬神博施衆ニ向ツテ百行愛
ス可キノ女徳アル一ハ英王女主ノ原ヨリ及

ハサル所ナリ
フランシス一世陽ニ皇帝ヲ稱スト雖モ政務
ヲ執ル甚少ニシテ陰ニ女皇ノ導ヒク所トナ
リ其無慾ナル一最甚シメリアゼレ一ガ朝覲
ヲ行フトキフランシス萬乗ノ主タル身ヲ以
テ百官ノ中ニ雜座セリ一日斯ノ如ク朝覲ヲ
行フニ當ツテフランシス常ノ如ク漠然瞻望
シテ更ニ事ニ關セザルモノ、如ク幽暗ナル
座隅ニアリ其傍ニ在シ二人ノ宦女帝タル一

ヲ認得シ瞿然トシテ其座ヲ避ケントセシカ
ハ帝之ニ語ツテ曰ク汝立ツト勿レ予朝會終
ル迄衆人ニ注目レテ自ラ日ヲ消スルタメニ
此處ニ止ルベシト一人ノ女子之ニ答テ曰陛
下苟モ爰ニ在ラシトテ欲セバ朝會固ヨリ終
ルトアタハズ帝曰ク嗚呼汝誤レリ予茲ニ在
テ唯一常人タリ予カ配並ニ子息等ハ即チ朝
家タルナリ一
フランシスノ原ト善良愛スベキノ國君ニシ

テソノ仁愛アル事ノ例ヲ聊カ此ニ掲ク可シ
嘗テ冬日維也納ノ城外ニ洪水アリ其深サ數
尺ニ盈チ人民自ラ危難ヲ避クルノ方法ナク
已ムトテ得ズ或ハ屋上ニ登リ或ハ樹木ニ上
リテ居ルト三日寒威ト飢餓トニ依テ殆ト死
ニ濱セシカハ帝其寒苦ヲ見ルニ忍ビズ自ラ
彼等ヲ救ハントスルノ方法ヲ計リケルガ水
勢瀾々トシテ浮氷ヲ漂レ之カ為ニ船ヲ出レ
救フノ難カリレガ斯ク死地ニ陥リシ人民ヲ

救ハズンバアルベカラズトテ獨リ船ニ飛乗
リ漸クニシテ其所ニ抵レリ時ニ救濟ノ為メ
運送シタル品物實ニ擄指ニ勝エザリシナリ
此ニ依テ其他ノ者モ各自ラ窮民ヲ利セン
ヲ勉メ數艘ノ船ヲ遣リテ悉ク之ニ窮人ヲ乘
セ歸レリ

フランシスハ學問ヲ好ミ更ラニ化學事業ニ
心ヲ歸セシハ當時尚仙石前ニ見ユニ就テノ謬迷
未タ廢セス此神奇ヲ查出セシト欲スル心絶

エザルヲ以テナリ

問七ヶ年戦争ハ何ナルヤ

答日國治安ナルヲ己ニ凡ソ七年ニ及ヘリ此
ニ至テ佛人亞墨利加ニ於テ英人ト戦ヒ日國
ノ内ニ在ル英領ヘモ入寇セリ之ヲ七ヶ年戦
争ノ發起トス

問日國ノ中其他ノ戦争如何ニ起リタルヤ

答前ト同時ニノリアゼレীগザ嘗テ普國大王
啡哩特ト終ノ和睦ニ於テ讓タル地細勒西ヲ

今又收復セントノ目的ヲ以テ魯西亞女皇ト
盟約ヲナシタルユヘ一戦争始リ普王此戦ニ
殷名ヲ高ウセリ

問此兩戦如何ニ終リシヤ

答此新戦七年續キタル後佛英モ和セリ其同
時ニ魯ノ女皇及ヒ普王ト和議ヲ決シテ凡ソ
戦争ニ獲タル諸物ハ互ニ之ヲ回復シニ主皆
損益スル所ナク戦争發起ノ前ト少シモ異ナ
ルヲナシ

問此和睦ノ後帝ノ親族ノ中ニ何等ノ事件起リ
シヤ

答此頃帝フランシス暴ニ殂シ太子ジヨセフ
嗣テ帝トナル然ルニ皇帝在世ノ間ハ權力所
領ナク惟有名無實ノ王タリ
ジヨセフノ次弟レヲポルドタスケニ一ノ大
公トナリ第三ノ弟五ルヂナンドハロシバル
ヂーノ内墺國所領ノ管領ニ任セラレ其後速
ニ彼レノ婚姻ニ因テモデナヲ併領シケリ斯

ル景狀ヲ記載スル所以ノモソハ正サニ墾國ノ執權等以太利ニ於テ多クノ威望ヲ逞シウセシヲ示サンカ為メナリ

王族左ルジナンドヲ語ル上ハ其愛ス可キ性質ニ就キ名高キ一ニノ奇談ヲ爰ニ説ザルヲ得ズ

左ルジナンド以太利ニ發足スルノ前新職ニ就クノ賀トシテ數多ノ大宴會ノ設ケアリ尚別ノ諸慶賀中ニ或夜スコフンブルウンノ宮

中ニ於テ列炬ノ盛宴アル可レトノ説アリ公之ヲ聞キ皇太后ニ語ケテ曰ク阿母己ニ吾ガ為メニ莫大ノ金錢ヲ費セリ今列炬ノ値イヲ以テ麵包ノ高價ニ苦シム人ヲ救助セバ應ニ可ナルベレト皇太后乃チ公ノ諫メヲ納レ直ニ其企ヲ廢シ公ノ好ニ任セ金錢若干ヲ贈レリ公之ヲ得テ欣然トシテ自ラ數時ノ艱難ニ罹リタル多クノ名族ノ處ニ到レリ今爰ニ公ノ此金錢ヲ何ニ用ヒタルヤヲ語ルヲ要セス

巨長曼史略

卷七

部

然レ此公一日ヲ施惠ニ送リレ後其宮中ニ歸
リ皇太后ニ向ツテ感謝シテ曰ク阿母此施行
ヲ為ス實ニ一盛宴タリ

問如何ナル艱難七ケ年戦争ニヨリテ起リシヤ
答當時一般ノ窮乏ハ全ク既ニ許多良土ノ耕
作ヲ廢シ且國ノ各部ニ於テ通商ノ大害トナ
リタル七ケ年戦ノタメナリ

問當時日國ニ於テ互市ノ大都府ヲ何ト云フヤ
答當時ハンブルグハ日國ニ於テ互市ノ總都

府中ニテ最モ大ナルモノナリ此ニ數多ノ英
國商人居住シ且他國ノ商人此都府トノ通商
ヲ止メラレザルヲ以テ他國ノ為ニ最モ至重
ノモノタル故七ケ年戦ノ間ト雖モ此都府ヲ
以テ局外中立ノモノトセラレ何レノ黨トモ
和親ナリケリ

問ハンブルグ互市ヲ如何ニナシタルヤ
答ハンブルグニハ已ニ商船三百艘アリテ英
吉利和蘭及ヒエルブ河涯ノ總列國マテ商品

日清通商各

卷七

五五

文部省

日耳曼史
卷七

ヲ以テ往来セリ

蘇布ノ互市多ク廣マリシ前及ヒ大英國ニ於
テ其業ノ更進セシ前迄ハハンブルグノ商人
ヨリ此國ニ運輸セシテ多量ナリ且戦争ノ時
ニハ此地日耳曼内地ノ費用ニ給スル大庫々
リ是ハ内地年中ノ供給絶エズ外國ヨリ此處
ニ持渡レハナリ

此都府ノ家屋ハ一般ニ高ク街衢ハ甚ク狹隘
ニシテニツノ馬車相通過シ難シ蓋シ馬車ノ

流行セザリシ以前ニ街衢ノ建造アリシモノ
ナラン否ラズンバ必ス道路開濶ナルベシ
居民大半商人ニシテ就中大舗ヲ所有シタル
英人衆多ナリ

此都府ヲ區分シテ五ツノ牧師治下トナシ毎
區美麗ナル新教ノ禮拜堂アリ

問此都府如何ニ支配セラレシヤ
答爰ニ市尹四人議士二十四人及ヒ他ノ官員
若干アリテ之ヲ支配ス府内工人僅カニシテ

日耳曼史
卷七

辛六
文部省

匠人殊ニ多ク其製造品ハ只金銀絲緞ノ織物
及ヒ襪ト網緞ノミナリ
居民多クハエルブ河濱ニ小サキ花園ヲ有シ
毎日商業ヲ終ヘシ後常ニ此處ニ來テ逍遙セ
リ去レド花園製作ノ方法英人ノ趣向ト異ニ
レテ唯天然ノ光景ヲ擇ヒ且園中樹木ノ梢枝
少シク籬外ニ蔓延スルト思ヘバ之ヲ剪除ス
花園ハ小ニシテ規格アリ又樹木モ格外高大
ナラシメズハンブルグノ雅人等毎夕茲ニ遊

ンテ歡樂シ烟管ヲ啣ンテ遊歩セリ
都府ノ周圍ニ墻垣ヲ繞ラシ又諸關門ハ常ニ
早ク閉チテ後出入ヲ許サス
府内ノ女子總テ其行ヒ甚タ端正黒キ網緞ノ
覆面ナクンバ苟モ戶外ニ出ルヲナシ
ハンブルグノ議士ハ昔時ノ西班牙風俗ニ似
タル衣服ヲ穿チ一般黒色ニシテ上衣並ニ大
鷲絨ノ帽子ヲ著シ一劔ヲ帶ヘリ
一旦議士ニ選レタル者ハ終身仕官シ其中十

人ハ狀師其餘ハ商人ヨリ選ヘリ然レトモ商人其職ニ就ケバ商業ヲ棄テ馬車一輛ヲ有スルコナリ議士ニ選バレタル者ハ大約富人ニシテ殊ニ官祿アルヲ以テ前ノ所為ニ及ヘリ

問 ハンブルグノ幸福七ケ年戦ニ因テ如何ニ増シタルヤ

答 前ニ述ヘタル如ク亞墨利加ニ於テ英佛ノ間ニ起リシ七ケ年戦ノ間兩黨互ニ其高船ヲ掠奪シ且各ハンブルグニ於テ售ル為メニ積

入タル品物ヲ運送スルヲ以テ常トセリ故ニ亞墨利加西印度及ヒ英佛等ヨリ此都府ニ凡百ノ商品ヲ輸蓄シタルユヘ唯此都府ノ居民ノ幸福ヲ得テ其他諸都府ノ居民ノ戦争ノ危難ニ罹リテ商利ヲ得ルコト能ハサルガ如キニ非ス

問 女皇臣民ノ安全ヲ如何ニ進メシヤ

答 久戦幸ニ止ムノ後女皇多年平時ニ専ラ術藝學問ヲ勸奨シ國中ノ郷里ニ學校ヲ設立シ

テ臣民ノ安全ヲ進メ且諸般ノ製造ニ於テ總
テ有用ノ發明及ヒ更新ヲ為ス者又嘉禾ヲ養
成セシ農夫等ニハ皆恩賞ヲ與ヘタリ

問メリアセレザ野獸ニ就テノ法令ヲ如何ニ
改革シタルヤ

答從前野獸ノ法令トテ農夫ニ甚タ害アル法
度アリ猪狼等ノ如キ野獸田園ヲ暴シ時トシ
テハ嘉禾ヲ害スト雖モ貴族遊獵ノ樂ミタル
ヲ以テ農民擅マ、ニ之ヲ殺スコトヲ得サリシ

ガ女皇野獸ノ田園ヲ害スルモノハ立ドノロ
ニ殺ス可キノ權ヲ人民ニ與ヘ是ヨリ後ハ麩
麥嘉禾多ク其害ヲ受ケザリシナリ

問當時墾人一般ノ景況如何ナルヤ

答此頃墾人甚タ多祥遂ニ戦争ノ禍患ヲ免レ
太平治安ニ鼓腹シテ自由安寧ノ生計ヲ營ミ
縱令下賤ノ徒ト雖モ貪民甚タ稀ニシテ缺乏
見ヘサリケリ
農夫ハ領主ノ管地ニ居住シテ未タ封建制度

ノ風習ヲ免レサリシガ匠人ハ多ク自由ニシテ安寧ナリ故ニ勞動ヲナス人ノ中ニテ其數最モ多シ瓊地利亞ノ農婦ノ衣服ハ通例粗ナル自製ノ短裳及ヒ絹紐ニテ結ヒ付タル掩心赤色或ハ黄色ノ風領ヲ用ヒタリ襪并ニ拖襪ハ通例綠色ナリ其國ニテモ土地ニヨリ兒女子ハ絹紐ニテ飾リタル褐色ノ大ナル帽子ヲ著セリ又國人絹紐ノ飾リアル廣幅ノ帽子ヲ著セリ

去レル瓊國諸領ノ各部ニ於テ下等ノ者ハ其衣様更ニ別ナリ

問 女皇國俗ノ舊弊ヲ如何ニ矯正セシヤ

答 メリス、ゼレ、ザノ世ニ至ル迄日國ニ於テ禮拜堂及ヒ修道院ハ罪人懺悔ノ靈所トナルノ權アリテ犯罪人此處ニ入レバ生命ヲ全ウスルヲ得タリシガ此賢才アル女皇斯ル風俗ノ弊害アルヲ覺リシ故ニ一令ヲ發シ苟モ國法ヲ敗リタル者ハ神聖ナル祠堂ノ域内ニ

藏匿スルヲ禁セリ
女皇苛刺ノ刑ヲ廢シ以太利ノ領内ニアルイ
ンクワイシイシヨント稱スル苛酷ノ司法院
ヲ禁止セリ

問日國ニ於テゼシユイツ宗社ヲ廢シタルハ何
頃ナルヤ

答ゼシユイツ宗社ノ者トモ既ニ新教宗徒ノ
忌ム所タルヲ以テ女皇ノ世ニ當ツテモ尚廢
制セラレシガ當初西班牙ニ於テゼシユイツ

禁止ノ時之カ社長等ノ受ケタル如キ殘忍ノ
所為ニ遭ハシメズ女皇ハ此宗徒ヲ處スルコ
更ニ寛ニシテ且生計ノ方法ヲ得セシメ西班
牙ニテハ社友苛刺ノ所為ヲ受シ上ニ尚餓死
スルモノ數多ナリ
當時日人ハ多年ノ間治安富饒ノ恩徳ヲ享ケ
タリ

問墺地利亞ニ於テ兵籍ヲ取立タルハ何故ナル
ヤ

答日國前ノ如ク安寧ナルト雖モ尚隣國ニ普魯士ノ如キ勁敵アルヲ以テ之ニ敵ス可キ安全ノ方法ヲ設立セザルトテ得ス是ニ於テ已ムトテ得ス兵籍ノ設アリテ適宜ノ年齢ノ者ヲ強ヒテ軍務ニ充テタリ
日國此ノ如ク我意ノ處置アルニヨリ下民平常兵卒ニ驅役セラレントテ畏怖セザルトテ得ズ且損失ヲ招クトナレリ就中チロルノ居民此兵籍ノ制度ニ從ハス各卒伍ニ編入セ

ラル、トテ恐レ常ノ如ク角力ノ徒トナリテ賞品ヲ獲ンカ為メインスブルツク國并ニ他ノ都府ノ墟場ニ行クトナカリレナリ
問 奧國所領ノ内此軍制ヲ免レタルハ何地ナルヤ
答 奧國所領ノ内此ノ制度ヲ免レタルハ只尼達蘭恒加利チロル且以太利ニ在ル日國所領米蘭ノミニシテ其他ノ諸領ニハ此制度悉ク發行セラレタリ

問此頃波蘭ノ景况如何ナルヤ

答從來禍患ヲ受ケタル波蘭國ハ人ニ對シテ甚々恥ツ可キ不正ノ流弊アリ今爰ニ述フ可シ當時波蘭ハ往昔ノ如クニ富强ナラズ國主ハ選舉ニシテ世襲ナラス權威甚々制限セラレ恰モ共和國ノ總長ノ如ク不幸ノ國ナルニ既ニ魯西亞女皇過半之ヲ管領セリ波人多クハ封建制度ニ屬セラレモナルガ貴家甚々衆多アリ土地ヲ有セシ者又ハ往キニ土地

ヲ有セシ者ノ子孫ニテ商業ニ關涉セザル者ハ縱令ヒ貧窮ナルトモ貴人トナサレタリ就中最も富强ノ者ハ昔時ノ諸侯ノ如ク衆多ノ家臣アリ是ハ何レモ貧キ貴族ニシテ商業ヲ賤ミテ之ヲナサズ別ニ生計ノ方法ナク唯富家ニ頼リテ寄食隨行シテ常ニ不虞ニ注意セシモノナリ

問波蘭分割ノ發リシハ何ニ因ルヤ

答當時波蘭王オ、ギユスチユス三世死セシ

ニ由リ貴族等各王位ヲ繼承スベキ由緒アル
ヲ以テ其位ヲ争フノ騷亂起レリ其中ニコラ
ントステニスロウスポンヤトウスキナルモ
ノアリシガ魯國ノ女皇ハ專ラ此者ノ繼立ヲ
助ケタリ然ルニ日國ノ女皇メリアゼレ一ザ
ハ波國先主ノ遺子ヲ助ケ又普魯士王ハ強ヒ
テ王位ニ選レタルステニスロウスノ波王タ
ルベキ旨ヲ公告シヌステニスロウス己ニ立
テ王タルト雖モ往キニ己ヲ選舉シタル者ヲ

慰ムル事ハナクシテ却テ甚タ人ニ藉ラサラ
氣象アリ素ヨリ廢位ヲ甘シテ承順ス可キモ
ノニ非ザルユヘ波國ハ之ガ為ニ騷擾シ流血
ノ巷トナリタリ
問波蘭ヲ分領シタルハ誰ナルヤ
答波蘭自國ノ騷亂ニヨリテ大ニ衰弱シ於是
普魯士ノ三國連衡シテ之ヲ分有セン
セリ波王今彼等ノ合軍ニ敵スル力ナク已ム
ヲ得ス分國ノ約定書ニ款印スルヲトナリ

境國ハ波蘭南方ニ在ル富饒ニシテ且廣大ノ
土地ヲ分外ニ得タリ

問メリアゼレীগザノ殂落ハ何頃ナルヤ

答メリアゼレীগザハ年齢六十四歳ニシテ殂
ス實ニ紀元千七百八十年ナリ曾テ女皇ヲ愛
敬シタル臣民之ヲ聞キ涕泣悲歎セザルハナ
シ

平田宗敬校

日耳曼史略卷七

